

NST活動を振り返って施設のリスクを考える

○木村佑美子¹⁾ 小泉慶明²⁾ 池浦一樹³⁾

1)社会福祉法人豊潤舎 2)市民調剤薬局 3)らぽーる新潟ゆきよしクリニック

もくじ

1.はじめに

2.実績報告

3.今後の課題

Q.NSTとはなんの略だと思えますか？

A.新潟総合テレビ

B.なんとかST(池浦さんのこと)

C.栄養サポートチーム

NSTとは？

栄養状態の改善に努めることを目的に他職種が協力して栄養管理を行うための医療チーム

- ・消化器系の術前術後の栄養療法
- ・褥瘡予防、治癒のための栄養療法
- ・癌の化学療法、放射線療法時の栄養療法
- ・呼吸器疾患に対する栄養療法 などなど

日本におけるNSTの三大目標 (東口 2008)

1. 一貫した栄養管理の提供
経静脈・経腸・経口栄養を一貫して管理
2. 少子高齢化対策
栄養障害だけでなくLOM(likelihood of malnutrition)症例に対しても栄養療法を実施して、高齢者の合併疾患の発生を予防
3. 地域一体型NSTの構築
急性期から慢性期、在宅そして地域福祉施設まで適切な栄養療法を提供できる体制作り

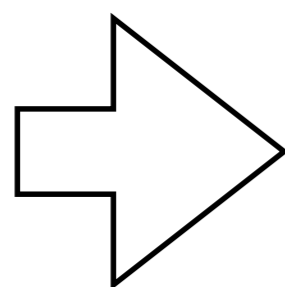
Q.飽食の日本において低栄養はあると思いますか？

A.あります

低栄養者の割合を論文から調査

在宅療養高齢者1,142名を対象とした研究(日本)

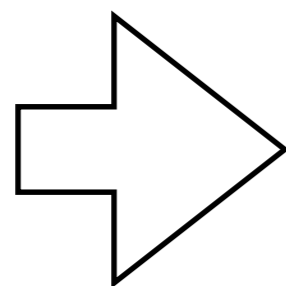
(日老医誌2014)



栄養状態良好 : 27.8%
低栄養のリスクあり : 55.4%
低栄養 : 16.7%

在宅在住高齢者632名を対象とした研究(中国)

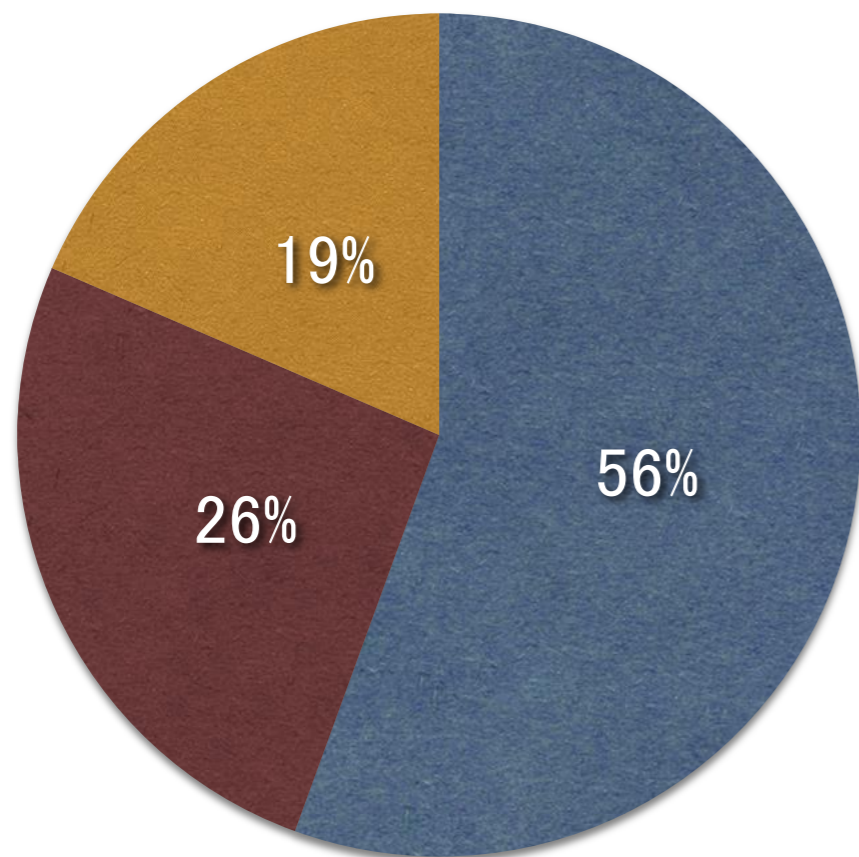
(Clinical Nutrition2012)



栄養状態良好 : 23.9%
低栄養のリスクあり : 70.4%
低栄養 : 5.7%

栄養スクリーニングと摂食嚥下障害の割合

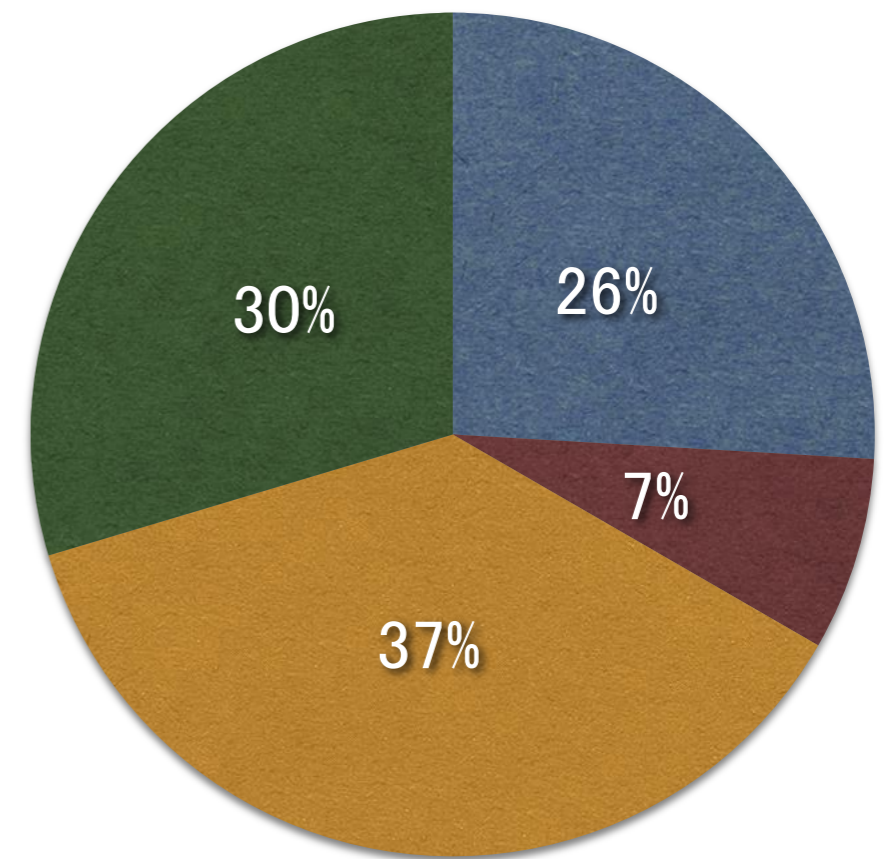
MNA®-SF 得点



n=27(単位:人数)

- 低栄養
- 低栄養のおそれあり
- 栄養状態良好

MASA 得点



n=27(単位:人数)

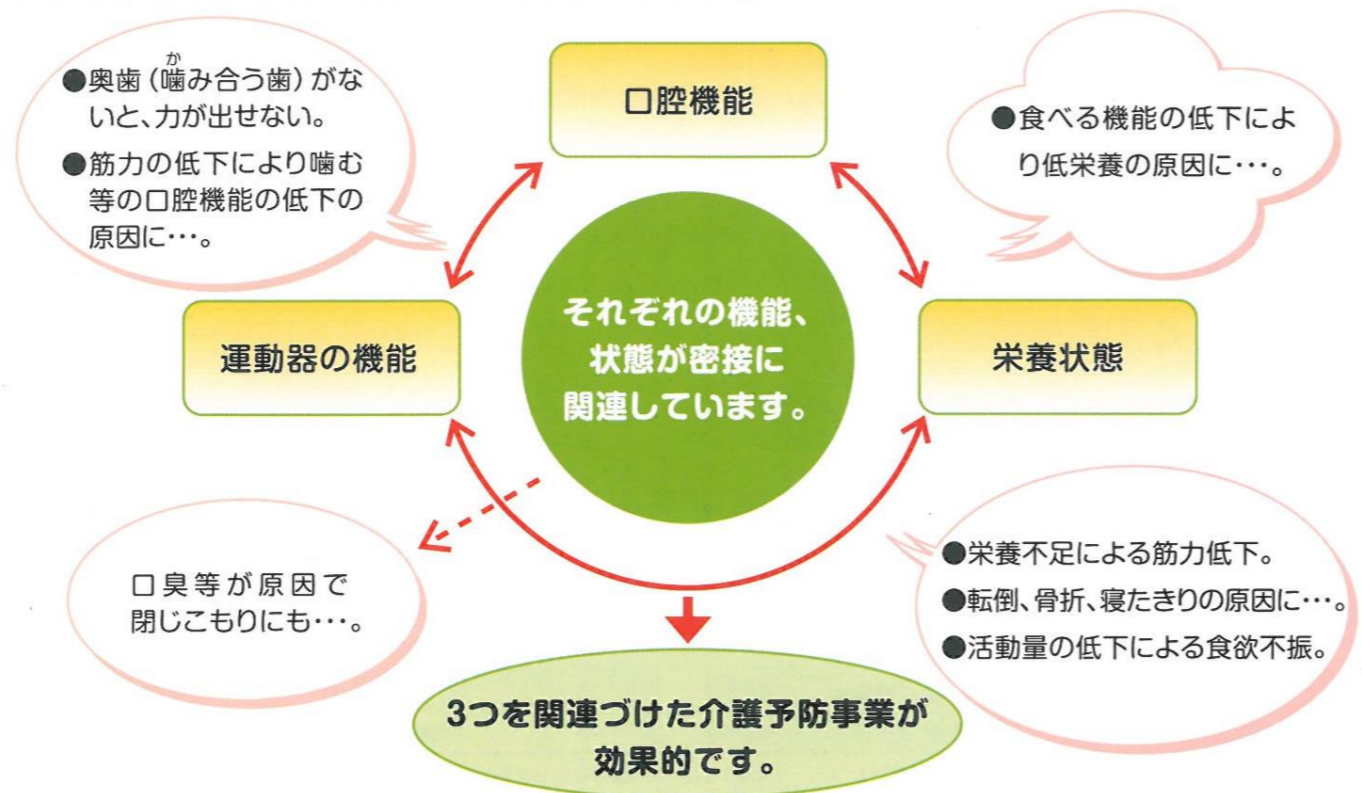
- 異常なし
- 中等度障害
- 軽度障害
- 重度障害

低栄養のどこがリスクなのか？

口腔機能アップ！元気なお口で寝たきり予防 一介護予防従事者向け実践ヒント集一

Ⅱ 口腔機能の向上と栄養と運動の関連 ●●●

口腔機能、栄養、運動器は、それぞれが深く関わっています。



介護予防事業の3本柱

- 生命活動や活動にはエネルギーを消費する
- 免疫機能の維持
- 身体的虚弱(フレイル)、認知機能低下
- 筋肉減少症(サルコペニア)
- 嚥下障害の悪化(誤嚥性肺炎の発症)

誤嚥性肺炎の発症要因 (Langmore ら)

- ・口腔内細菌叢の存在
- ・誤嚥の発生
- ・宿主の抵抗反応

誤嚥性肺炎の発症要因 (松村 ら)

- ・嚥下障害の存在
- ・Alb値の低下
- ・食事形態

- ・誤嚥性肺炎の予防には栄養管理が重要

誤嚥性肺炎の費用的損失 (老年歯学2003)

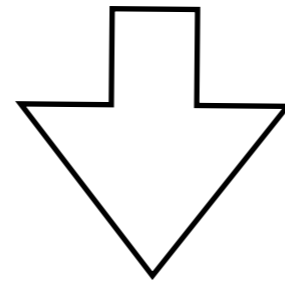
誤嚥性肺炎に関する診療報酬 (n=19)

	入院期間	請求額の合計	請求額の内訳										
			診察料	投薬料	注射料	処置料	手術料	輸血料	検査料	画像料	リハビリ料	指導料	入院料
平均	55.5(日)	168676	196	4605	40422	8694	3189	656	20752	5777	4308	615	79463
SD	31(日)	81699	242	6913	24910	6117	6448	2358	13228	3641	7372	704	39907

- ・利用者にとっても施設にとっても費用的損失を認める

小括

- 低栄養は身体的、精神的に損傷を及ぼす
- 国内のみならず世界的に見ても低栄養は蔓延している
- 施設内においても低栄養は確認することができる



低栄養や摂食嚥下障害の把握は個人の生活全般に波及する

もくじ

1.はじめに

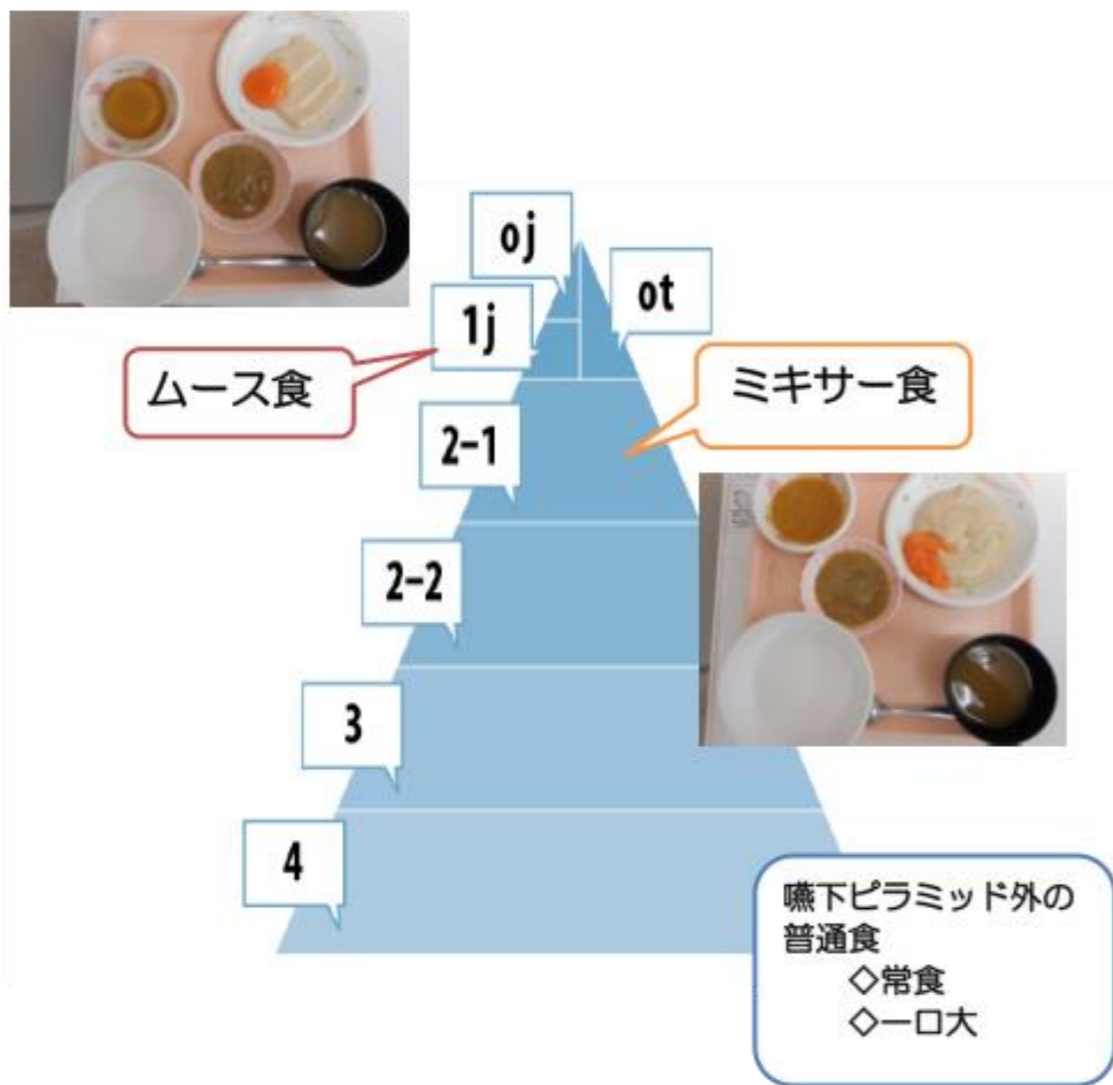
2.実績報告

3.今後の課題

昴NST活動を通じての変化1

提供している食事形態の変化

小規模特別養護老人ホーム 昴
嚥下ピラミッド



一口大



常食

特徴

- ・日本摂食嚥下リハビリテーション学会の学会分類に準ずる
- ・ムース食の新設
- ・極きざみ食の廃止

注1;

日本摂食嚥下リハビリテーション学会分類基準は別紙資料①を参照

昴NST活動を通じての変化2

提供している食事形態の変化

全体

個人

強すぎるトロミには注意しましょう!!

使用量の目安 [学会分類2013 (とろみ)]

性状	薄いとろみ	中間のとろみ	濃いとろみ
	スプーンを傾けるとすっと流れ落ちる	スプーンを傾けるととろとろと流れる	スプーンを傾けても、形状がある程度保たれ、流れにくい
水・お茶・温かいお茶 200mlに	小さじすりきり 1杯 (1.7g : 1%)	小さじすりきり 2杯 (3.5g : 1.5%)	小さじすりきり 3杯 (5g : 2.5%)
牛乳・オレンジジュース・スポーツ飲料・みそ汁 200mlに 対して	小さじすりきり 1杯 (1.7g : 1%)	小さじすりきり 2杯 (3.5g : 1.5%)	小さじすりきり 2杯半 (4g : 2.0%)

花ユニット

【適正なとろみ】

《薄いとろみ》
お茶・水200ml に対して
小さじすりきり 1杯

【とろみの状態】

スプーンを傾けるとすっと流れ落ちる

《中間のとろみ》
お茶・水200ml に対して
小さじすりきり 2杯半

強すぎるとろみは要注意です!!

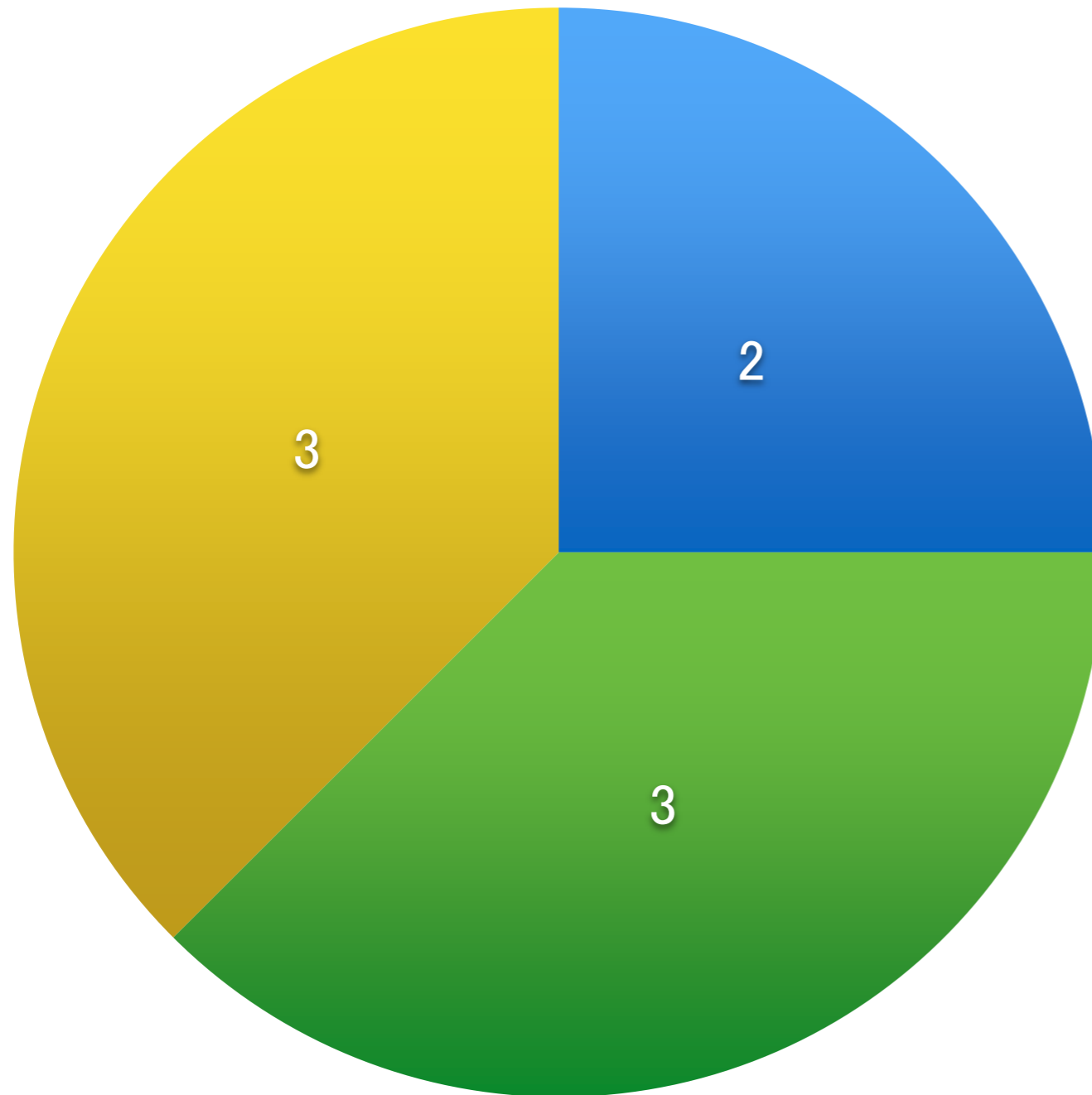
スプーンを傾けるととろとろと流れる

特徴

- ・日本摂食嚥下リハビリテーション学会の学会分類に準ずる
- ・とろみの再現性構築
- ・個別対応可能なシステムの構築

アルブミン値3.5以下者の比較

比較検討のできる8名を対象



8名中
6名維持・向上

■ 数値低下 ■ 数値維持 ■ 数値向上

小括

日本におけるNSTの三大目標 (東口 2008)

1. 一貫した栄養管理の提供
経静脈・経腸・経口栄養を一貫して管理
2. 少子高齢化対策
栄養障害だけでなくLOM(likelihood of malnutrition)症例に対しても栄養療法を実施して、高齢者の合併疾患の発生を予防
3. 地域一体型NSTの構築
急性期から慢性期、在宅そして地域福祉施設まで適切な栄養療法を提供できる体制作り

-
- ・ゆきよしNST活動は一定の効果を認める
 - ・ゆきよしNST活動により基準食を提供可能となった
 - ・ゆきよしNST活動は三大目標に準じて活動を行っている

もくじ

1.はじめに

2.実績報告

3.今後の課題

今後の課題

NST活動の委員会化（法人間を自由にまたげる活動）

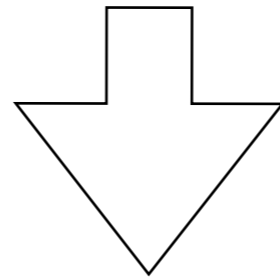
- リスク因子の共有化や低栄養、摂食嚥下障害の啓発活動
- 研修会の企画
- 人員の育成

NST活動の結果は目には見えにくい
即効性の効果は感じられない

一緒に考えましょう。低栄養、摂食嚥下障害。

まとめ

- ・低栄養は身体的、精神的に損傷を及ぼす
- ・国内のみならず世界的に見ても低栄養は蔓延している
- ・施設内においても低栄養は確認することができる



低栄養は宿主の抵抗力低下につながり
慢性疾患の悪化につながる可能性がある

当法人内で行われている活動は目標に準じて行われており
一定の効果を発揮している

NST活動の様子

嚥下調整食の試食会



実際の活動



ご静聴ありがとうございました！

ゆきよし
栄養サポートチーム